

「まち」が変わる!? 自治基本条例⑦

政策企画課 224-5503

関東学院大学教授・出石稔さんによる「自治基本条例連続講座」の内容をまとめたものです。

「自治基本条例が制定されて何が一番変わりましたか」と、策定に関わった市民の方に聞くと、まず初めに「職員が変わった」という答えが返ってきました。

皆さんに代わって自治を運営している職員が変わっていくことはすごく大事で、職員の意識が変わって、自治基本条例にのつとった取り組みを進めていくと、行政が変わります。行政が変わると新しい仕組みが

作られ、それに応じて市民の方も変わっていく。市民が変われば地域が変わります。

自治基本条例は「作ったら終わり」ではなく、「使っていくことが大事」です。即効性を期待してはいけません。職員が変わるのではなく、「職員を変える」、「行政を変える」のです。では誰が変わるのでしよう。それは、自治基本条例を使ってみんなを変えていくことだと思っております。

大人も楽しめる

児童文学

BOOK
NAVI

中央図書館

222-0559

児童文学とは、子どもが読める文学で、大人も子どもも楽しめる文学のことです。子どもの心をとらえ、さらに大人の心まで

とらえる優れた作品がたくさんあります。

そして、児童文学には挿絵が欠かせません。特に絵

が物語るといわれている絵本では、絵の力が求められています。

中央図書館では毎年、児童文学講演会を開催し、作家や画家など、多彩な講師を招いています。

10月29日(土)に開催する今年の講演会のテーマは「動物画家藪内正幸」画家として、親として。藪内正幸さんの長男、藪内竜太さんが「どうぶつのおかあさん」(写真)「しっぽのはたらき」などの絵本、「野鳥の図鑑」「野や山にすむ動物たち」日本の哺乳類などの図鑑、物語の挿絵、国語辞典のイラストなど、多くの鳥や動物を描いた藪内さんの絵の魅力、父としての姿を語ります。

大人も楽しめる児童文学講演会に、皆さんも参加してみませんか。



小森厚 / ぶん 藪内正幸 / え 福音館書店

くらしの中の花と緑⑥

緑を増やして
快適に暮らそう

環境政策課 224-5866

年々深刻になっている地球温暖化やヒートアイランド現象などの環境問題。これらの改善には、「緑」を増やすことが有効です。しかし市街地では地上部に緑化できるスペースが限られています。そこで有効なのは、屋上緑化や壁面緑化。市では、市民の皆さんや事業者が市街化区域内で行うこれらの緑化に補助金を交付しています。

この制度を利用して、「川越モディ」(脇田町)では屋上緑化を実施。「涼しげな緑を眺めていると気持ちが和んでホッとできます」と話すのは、休み時間に屋上を利用するという小野真弓さん。「定期的な水やりと消毒をすれば、それほど手間もかかりません」。

真夏日となったこの日、芝生とコンクリートの上では約10℃の差があることがわかりました。



*一般の方は屋上に上がりません

建物への緑化は、植物の蒸散作用によるヒートアイランド現象の緩和や、建物内の温度上昇を抑えるなどの効果があり、省エネにもつながります。

緑を身近に感じながら環境問題にも取り組める「屋上緑化・壁面緑化」。自宅や会社で実施してみたいかがでしょうか。

平成22年度に市内の小中学生から募集した作文をまとめた人権文集「あけぼの」から、作品を紹介します。

いつでも強い心をもって①

中学一年

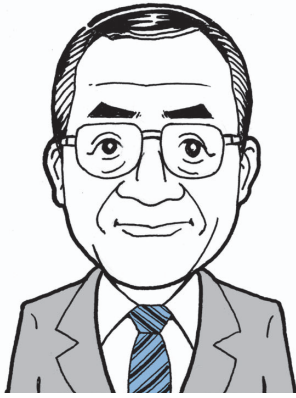
私が小学生のころ、クラス内でいじめがあった。一人の友達が、何人もの人に嫌がらせをされていたのだ。その友達は、先生の話や約束ごとを聞いていないことが多く、嫌われていた。私は、その友達を嫌いだ

とは全く思っていなかった。なぜかというと、その子はとても素直な人だったからだ。ある日、その子は私に、自分で描いたという絵を見せてきた。何人かの人はその絵をばかにした。確かに、その絵は上手ではなかった。しかし、自分で一生懸命描いた絵を他人に見せるなんて、素直

な人にしかできない。私は、その絵をばかにする人たちが許せなくて、止めようとした。そして「なんで笑っているの。やめなよ。」と言おうとしたのに、なぜか声が出なかった。（私がもし、嫌われているその子の味方になったら、きつとみんなに冷たくされるだろう。）そう思った私

は、その子を守ることができず、見捨ててしまったのだ。ところがある日の席替えで、私はいじめられている子と隣の席になってしまった。すると、その子は私に毎日毎日話しかけてきた。私は、みんなから、その子の味方だと思われるないように、その子の話を聞くだけだった。

(つづく)



市長からの手紙

⑱自然が復活？消滅？

先日、農家の皆さんと一緒にお酒を飲む機会がありました。いろいろ話をしているうちに、最近身近に見られる動物の話題になりました。水田地帯ではタヌキやキツネが見られるそうです。

そういえば、私の自宅にも、昨年と今年の夏に、タヌキが猫の餌を食べに来ていました。私の自宅では30年ほど前から猫を飼っていて、庭に餌を置いています。猫を飼い始めたのは子どもが捨て猫を拾ってきたのがきっかけでした。自宅の周りには水田で、以前はあぜの草むらなどに捨て猫が多かったのです。

タヌキは、昨年も今年も、6月下旬くらいに姿を見せ、8月終わりごろには来なくなってしまいました。私は生まれてこのかた60年間今の場所に住んでいますが、家の周りでタヌキを見るのは初めてで、一緒に飲んだ農家の皆さんも同じことを言っていました。

ここ20年くらいでしょうか、家の周りの水田に鴨が来るようになりました。また、大型の鳥も何種類か田んぼで見られるようになりました。鶴くらいの大きさの鷺の仲間と思われる鳥も結構頻繁に見られます。これらの鳥は、私が子どものころは、水田で見た記憶は全くありません。以前は、田んぼには白鷺(小鷺でしょうか)と五位鷺しか見かけませんでした。一緒にいた私とほぼ同年代の方も、「いなかったよなあ」と言っていました。

この原因としては、次のような推測ができます。ひとつは、タヌキや鴨や鷺の仲間の数が増えたから(自然が復活)。もうひとつは、動物たちの居場所や餌場が減ってしまったから(自然が消滅)。

自然が再生されたのであれば喜ばしいことです。しかし、どうも自然の動物たちの居場所が狭められ、人間が生活している地域に来なければ生きていけなくなったためである、と考えざるをえないようです。

川越市長 川合善明